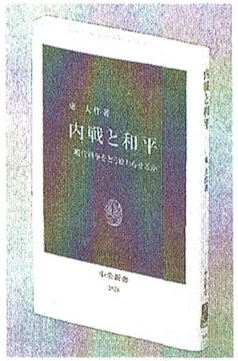
# 読書

共同通信配信 約30の地方紙で掲載

## 内戦と和平 現代戦争をどう終わらせるか

東 大作著



中公新書・968円

「内戦」は、現代の日本人にとってもっとも理解しにくい政治・軍事的現象だろう。同じ国民が敵と味方に分かれて殺し合うという事態は、私たちの想像力の及ぶ範囲を超えている。しかし、現代の世界では、数十の国や地域で内戦が進行中であり、その結果数千万人の難民が発生している。内戦は、その舞台となっている国だけでなく、周辺諸国はもちろんのこと、世界全体に影響を及ぼしており、その解決は人類全体が直面する課題であるといえる。

本書は、こうした現代の内戦に正面から取り組んだ研究の成果である。著者の関心は、内戦自体というより和平と平和構築にある。いったん内戦が終結したのちに、再び内戦が勃発した南スーダンとアフガニスタンを主要な対象とし、持続的な平和の実現の困難性と可能性が説得的に論じられている。

内戦を終結させるには、お互いに戦っている当事者同士が話し合って合意に達したらよいのではないか、なぜそれができないのか。日本の読者の多数はそう思うだろう。本書の優れた点は、事態はそれほど単純ではないことを、具体的な事例に即して、多数の当事者や関係者とのインタビューの成果を織り交ぜて、一般読者にもわかりやすく論じているところにある。

## 「対話促進者」になるために

まず、だれが交渉のテーブルにつくべき当事者であるかを決定するのが容易ではない。交渉は包摂的であるべきだが、限度を超えると話が前に進まない。和平交渉には仲介者が必要であるが、どういった組織のだれが適任であるのかという問題がある。仲介者としての国連が果たすべき役割とその限界も的確に論じられている。最後に、あらゆる交渉事につきものだが、「落としどころ」、妥協点をどこに設定するかという難題がある。

最終章では、平和国家としての信頼がある日本は「世界の対話促進者」となるべきだと論じている。和平交渉の促進者という理想が実現するうえで、本書の刊行はその第一歩と位置づけられる。

（栗本英世・大阪大教授）

**ひがし・だいさく** 1969年東京都生まれ、上智大教授。専門は平和構築。元NHKディレクター。国連アフガン支援団政務官や日本の国連代表部公使参事官などを歴任。著書に「平和構築」など。

## 友だち

シーグリッド・ヌーネス著、村松 潔訳

新潮ク・・22

初老の女性し」の、親し「あなた」が たのは巨大な アポロ。「あ 女性に頼られ アポロを引き のはペット禁 るにもかかわ ストーリー だけだ。間を 夥しい「わた る。自殺や書 物や生と死に 学作品や知人 の言葉を引用 「わたし」は、 なた」の死の ようとする。 夥しい言葉 物言わぬアポ 「あなたの犬 と、あなたの ような気がす さまざまな思

岩波書店編集部編

多くの人はふだん忙しいので、介護は他人事だと思っていないか。だから当事者になって、はじめて慌てる。そうならないためにも経験者の話を聞くことは有用だろう。しかし、本書で介護を巡るさまざまな立場の当事者40人が語る内容は、どれも重く、濃く、深刻だ。

それでもたとえば、姑と舅を介護して看取り、次に姑の姉の介護をしていたら、実母ががんになって、その上交通事故で亡

## うよすが

護ができないという指摘は見過ごせないし、日本では他殺による死者の6人に1人は介護殺人の犠牲者（2016年）という事実にも驚愕させられる。

というように、本書には介護にまつわるさまざまな局面が赤裸々に語られている。よりよい介護を実現するにはどうすればよいか。当事者の声はあまりに千差万別で、到底、答えは見つけられない。その中で唯一、希望を感じさせてくれるのが内田

岩波書店（東京）は1913年創業の一部」としての介護やケアについての提言を寄せた。

## 著者訪

さん

国内 インを 活躍し 吾さん の仕事 国立競 た。新 は、自 ながら、 目指し